2011/12 Weekly Bulletin

こころの中を見つめよう　博愛を広げるために

国際ロータリー 第2790地区 第3分区B

市原ロータリークラブ会報

Ending polio worldwide.
Rotary
Humanity in motion

第　2,328回　例 会　　2011年 10月　12 日（水）SAA/ 山崎 会員　会報担当：万崎会員
例会場：五井グランドホテル　　市原市五井　5584-1　　事務局　0438-38-3535

☆ 点　鐘　　市原RC会長　斉藤 榮志　　☆ ソング　我等の生業

☆ お客様　　千葉幕張RC　始平堂 玄昌様　　市原市体育協会：常澄会長・下原副会長

会長挨拶　市原RC会長　斉藤　榮志

今日のプログラムは始平堂地区職業奉仕委員長さんをお招きしての卓話となります。日頃、会員増強の為の勧誘時とか、その他会員でない方に「ロータリークラブというのは何をしているクラブですか？」と聞かれますが、クラブにおいて自己研鑽に務め、ロータリーの奉仕の理想を理解し、自己を確立して職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕を実践していくクラブですと答えたりします。そこで社会奉仕、国際奉仕は比較的わかり易く説明もし易いのですが、職業奉仕は難解です。幸い当市原ロータリークラブには齊藤、白鳥両パストガバナーを初め教えを請う人材には事欠きません。私も13年間当クラブに在籍し、先輩方と職業奉仕についてお話しする機会を多く持てた事により、頭の中ではある程度理解が出来てきたような気がします。しかしながら人にお話するとなるとまた別です。ロータリーの職業奉仕の理念を他の人に理解していただく為に、どのようにお話したらいいのか、まだまだ分かりません。もっともっと沢山のロータリーの先輩方のお話を聞いて理解の度合いを深めていかなければ達成出来ないのではないかと思っています。そう言った意味からも本日始平堂地区職業奉仕委員長さんには新たな、違った角度からの職業奉仕理念の理解促進の為のお話が聞けるのではないかと楽しみにしております。

幹事報告　　幹事　山本　順也

本日理事会にて11月プログラム承認となりましたので、皆様にお配りします。

その他の協議事項については議事録を参照下さい。

お客様挨拶

(財)市原市体育協会

常澄会長様

下原副会長様

がんばろう日本

「第六回更級旗全国中学校剣道大会」に

東北3県の中学校を招待しよう。

〝募金活動をしています〟

ご協力よろしく

お願いします。

更級旗実行委員会

大会概要

一　大会名　がんばろう日本「第六回更級旗全国中学校選抜剣道大会」
二　期日　平成二十四年一月八日(日)～一月九日(祝)
三　会場　市原市中央武道館
四　主催　(財)市原市体育協会
五　主管　更級旗実行委員会
六　参加校　千葉県・市原市を含む全国一〇八校（男子五十四校・女子五十四校）
七　招待校　岩手県・宮城県・福島県の中体連から推薦された中学校（各県男子一チーム・女子一チーム）計六チーム

委員会報告

親睦活動委員会

10/18日(火)市原中央ロータリークラブと親睦ゴルフ大会が鶴舞C.Cで開催されます。

その夜、八幡屋さんで合同例会が開催されますのでよろしくお願い致します

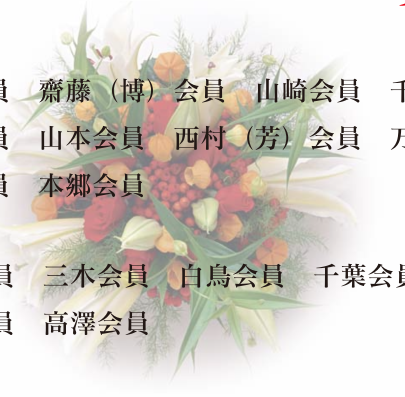
国際奉仕委員会

今年もPJの受け入れを考えています。　詳細が分かり次第ご報告いたします。

皆様のご協力を宜しくお願い致します。

結婚．誕生日

おめでとうございます



結婚記念

川島会員　齋藤（博）会員　山崎会員　千葉会員

常澄会員　山本会員　西村（芳）会員　万崎会員

三宅会員　本郷会員

誕生日記念

川島会員　三木会員　白鳥会員　千葉会員

泉水会員　高澤会員

ニコニコ・Sorry ボックス

齋藤会長・山本幹事

始平堂委員長　本日は卓話ありがとうございました。

齋藤会長・山本幹事

始平堂委員長様　卓話を楽しく拝聴しました。
今後もよろしくお願い致します。

（財）市原市体育協会

第6回　級旗全国中学校選抜剣道大会へのご支援よろしくお願い致します

出席報告　前々回 72.72 ％　本日出席 32 名　欠席 12 名　出席率　72.72%

講師　始平堂 玄昌

「職業奉仕について」

魅力あるクラブ作りということで、クラブの会長、幹事さんはご活躍されていると同時にまたご苦心されているのではないかと思います。

地域の委員会でロータリーについて話していたとき、なるほどこんなクラブだったいいなと思う言葉に出会いました。　茂原 RC の足立さんから聞いたのですが。

会いたい人がいるクラブ。話したい人がいるクラブ。例会が待ち遠しくなるクラブ。喜びを倍にしてくれる仲間のいるクラブ。悲しみを半分にしてくれる仲間のいるクラブ。　どうでしょう。

これと反対に、どうしても合いたくない奴がいる、話もしたくない。例会が苦痛だ。人の喜びや悲しみなんて関係ない。なんてクラブ。私も自分のクラブに置き換えて、どうだろう、うちのクラブは皆がどう感じているいるのか、気になります。
そんなクラブにしたくない。

ロータリークラブの親睦のあり方は、フレンドシップというよりフェローシップだという言い方をします。友達というより、志を同じくする同士、仲間といった意味合いです。同じ志しを持った仲間は、多少の意見の違いはあっても最終的に目指すところは一緒ですから、長く付き合い、心と心が通じ合う関係になっていくのです。

あなたがロータリーに入会した時のことを思い出して下さい。あなたは地域の誰かに、その職業の代表として相応しいとしてロータリーに推薦され、ロータリーが地域のその職業を代表すると認めてからこそロータリーに入会を許されたのです。　そのことを忘れてはいけません。

これはタイの元会長のビチャィ・ラタクルさんの言葉です。

その職業を代表する、重みのある言葉です。

地域のそれぞれの職業の代表が、フェローシップを持って集まっている団体。
職業人が、ある志を持って集まっているロータリーという団体。こぼロータリーアンが共有する志とはなんでしょうか。

皆さんはお分かりのはずです。

すべてのロータリアン、世界中のロータリアンが共有する志と言えば、私達が入会のとき受諾したロータリーの綱領に謳われたもの以外にはありません。**ロータリーの綱**

領は、ロータリーの目的を示したものです。私達全てのロータリアンが共有する文章の中に、ロータリアンとして持つべき志があります。これをロータリーの理念と言ったり、ロータリーの哲学と少し難しく言うこともあります。また、これから話をする職業奉仕についても、その綱領の中に謳われています。

　ロータリーは単なるフレンドシップの集まりではなく、フェローシップの団体だというのであれば、この志、目的についてロータリアン自身が認識していることが重大であるはずです。この先ロータリーがどこへ行こうとしているのか、どこへ行ったらいいのかを考えると、ロータリーの原点を改めて見直すことや、整理してみることは無駄ではないように感じます。世の中に必要とされていないものを、ロータリーだけが後生大事に掲げているだけのものかもしれませんが、皆さんと今一度、整理して見たいと思います。

　始めにロータリーに特有の考え方で、分かりにくいとあまり評価の良くない職業奉仕について話します。

　その考え方は、1908年ロータリーに入会したと言われる、アーサー・フレデリック・シェルドンによって提唱されロータリーが受け入れたものです。

　シェルドンは1868年、ミシガン州に生まれた出版社などで成功を収めた実業家です。後にシェルドンの販売学専門学校を設立し授業料をとって営業などを教えていたような、理論と実践の人でした。

　荒廃したシカゴの市場での経験から、事業の一時的な成功ではなく、継続して発展していく職業人のあり方を考え、理念へと結びつけたのです。

　その考えは職業人が事業をするときに継続的な発展を望むのは当然のことであり、運営する事によって利益を得ることも当然ことで卑しいことではない。しかし、その方法が合理的でなかったり、道徳的でなかったり、他人に避難されるような方法で大きな利益を上げたとしてもそれは長く続くものではない、というものです。シェルドンは自分の事業を継続的に発展、繁栄させた実戦経験と自分の納めた学問とを一つの考え方としてまとめ、それをロータリーの職業奉仕の理念として提唱したのです。

　1921年、スコットランド、エジンバラでの国際大会でシェルドンはロータリアンの職業は利益を得るための手段ではなく、社会に奉仕するための存在であり、儲けを優先しようとして事業を営むことが事業に失敗する最大の原因であると述べ職業上の倫理や道徳の重要性を訴えました。今でこそ、当たり前のようなこの考えは、人をだました当たり前という時代には画期的なものでした。

シェルドンのいう職業奉仕の考え方とは、ロータリアンの職業は社会的存在としてあり、ロータリアンは自分の事業の繁栄を考え、次に自分が属する業界全体の繁栄を考え、究極的には地域社会全体の繁栄をはかるというものです。職業を持つロータリア

ンはこのようにして職業を通じて社会に奉仕でき、最終的にその恩恵を受けるのが実はロータリアン自信であるというのが職業奉仕の考え方なのです。

これを極端に表したモットーが「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」であり、ロータリアンには広く知られている言葉です。シェルドンの考え方を理解すると、この意味するところがわかります。職業奉仕つまり自分の仕事を通じてより社会に貢献しようと考えて行動すれば、結果として自分の仕事が長く繁栄します。報いられます、ということなのです。

続いて、ロータリアンの綱領についてです。

その主文に「有益な事業の基礎として奉仕の理念を鼓吹し、育成する。」とあります。つまりロータリの目的は、事業を運営するにあたって奉仕の理想、つまりロータリーで培った奉仕の考えを基本に置き、その考え方を世に広め育てていくことであるとしています。　ロータリーは綱領の主文を読む限り、自らの職業を通じて社会に貢献していくという、先ほど話をさせていただいた職業奉仕、この実践を目的としていることがはっきり書かれています。

職業奉仕について詳しく書かれている綱領の第２項には、①職業の道徳的水準を高める。②すべての有能な職業は、尊重競れるべきと認識せよ。③業務を通じて社会奉仕するためにロータリアン自身を品位をあらしめよ。とあり、ここねシェルドンの考え方を示しています。

いずれも、言うは易く、行うとなると難しいことばかりです。

職業の道徳的水準を高めるとは、法律を守るといった以上のことが求められ、自らを律する力を試されています。自分の職業に誇りを持つことによるエネルギーが必要です。他の職業を尊重するとは、自分の職業を大切にすると同様に他の職業を大切に考えるということ。品位あらしめると言うことは、自分の欲望を制御できる力を高めるということ。自分の仕事を通して社会に奉仕する観念を持ち続けること、そのことが自分の品位につながるのではないでしょか。

皆さんは、どのように読まれますか。

このように、私達がロータリーへ入会したとき受諾した綱領には、ロータリーの目的は職業奉仕の実践にあると示しています。その目的を果たすために第１項から第５項までの活動を推進し世の中に育てていくように求めています。

私たち職業人は、自ら失敗や成功を通じて、自分の事業を長く繁栄させるのは、社会から必要とされる事業にすること、自分を律する高い道徳心を持つことや倫理観を持つことによって自分自身の職業に自信と誇りを持ち、それが事業を支えることを知っています。これは、日本で昔から言われる売り手、買い手、世間良しのいわゆる３方良しそのものであり、商売の極意に通じるものです。ここにいる地域の職業人の

代表者である私たちは、ロータリーに入会を許されたから職業奉仕をするのではなく、実は言葉では知らなくても、職業奉仕をしてきたからこそロータリーに入会を許されたのです。

ロータリに相応しい、ロータリーの志を共有できる職業人であるとロータリーが認められたからこそ入会を許されたのです。ビチャイさんは、ややもすると忘れがちなこの大事なことを入会の古い新しいに関係なく、それぞれ入会の時に戻って思い出しましょう。忘れないで下さいと、と言っているのです。

ロータリーでは、それを言葉にし、荒涼として、みんな共有する目的として掲げ、個人としても、そしてロータリーという団体としても、社会に貢献していく形を作り上げたいのです。私たちロータリアンに求められているのは、世の中にこの考えを推進し育てていくことなのです。

しかし、現実の社会は厳しい。先の見えない不況の中で。職業奉仕や綱領の理念は、一般社会では単なるきれい事にしか聞こえないかも知れません。それを、私たちロータリアン自信がきれい事と言っしまって、ロータリーの哲学、つまりロータリーの志しを捨てるのか、踏みとどまって、社会に鼓吹、育成すべき理想として同じ気概をもつ同士として公正な地域社会作りに関わるのか、その捉え方、実践の仕方によって、個々のロータリークラブのあり方も変わる、ロータリアン自身も変わるのではないでしょうか。人間には、どうしようもない欲っぽさがあり、同時に神々しさがあります。私たちの感ずるこの葛藤は、ロータリーの先輩達も持ち続けたものでもあります。人間として、人の痛みに耳を傾けられる、困っている人に手を差し伸べられる、こんな基本的なことでも、現実にはお金や健康に余裕のあるときにしかできないのは私だけではないと思います。

物心の充実、つまり商売の繁盛がロータリーの活動の源であり、ロータリーの理解が商売繁盛の秘訣でもあると言えるのではないでしょうか。

職業奉仕を実践している具体的な例を一つあげます。

愛知県豊田西RCの野田さんの例です。野田さんの職業は八丁味噌の醸造元です。彼は「一杯の味噌汁運動」という活動をしています。彼は「朝、味噌汁も飲まずに会社や学校に行く人たちが増えています。日本人は忙しさのあまり、暮らしに欠かせない“間”を忘れているのではないでしょうか。一杯の味噌汁を少し味わって飲む。

そんなところから心のゆとりを取り戻してみませんか。」そう訴えています。 野田さんは多くの小学生や中学生、また大人を工場に招待し、味噌の原料から発酵、味噌のできるまでを見学してもらっているそうです。豆にふれ、味わい、最後には彼らに実際に作ってもらい味噌汁を工場内で飲んでもらっています。野田さんはこの活動を通じて、生きること、家族愛、郷土愛、感謝や安全安心の意味。いただきますは命をい

ただかせていただきます、ということである事などを少しでも理解してもらっているそうです。　野田さんは、意識されているかどうか分かりませんが。この活動によってご自信の経営や広く食に関する業界へも良い影響がある事は容易に想像ができます。なかなか野田さんのようには行かないかもしれませんが、ロータリーの職業奉仕は私たちの仕事場でできる一番身近な奉仕のあり方なのではないでしょうか。

　職業奉仕を通じて社会に貢献していく、それが自分自身の事業を繁栄させていく。事業と共に自らの人間の成長も伴っていく。それぞれの職業の代表が志を持って集まっている団体。そんな仲間が知り合い切磋琢磨する場、それがロータリークラブなのです。

　理屈っぽい話ばかりで申し訳ございませんが、このように整理して行くと綱領や、そこのある職業奉仕といったロータリーに特有なこのような考えは方は、やはりロータリーの中心にあるあるべきもので、声高に主張するものでないでしょうが、その底流にある志、あるいは理念といったもの忘れてはいけないものであると思います。

　この思いをクラブで共有することは、虚飾でなく、真に誇りを持てるクラブ。ロータリアンでいることに誇りを感じる。そんなことにつながっていくのではないかと思います。同じ誇り高き職業人として、つまらない見栄から自己を解放し、人間として付き合う。そこから会いたい人のいるクラブ。話したい人がいる。例会が待ち遠しい。悲しみを半分にしてあげられる仲間でいることができる。たがの外れない強い興味あるクラブへの道は、残念ですがお題目を唱えているだけでは開きません。

　皆さんはどのように考えますか。どのように理解しますか。

　ロータリーの言う職業奉仕は、職業を持つロータリアンならではの奉仕のあり方であり、地域の様々な職業の代表である私たちがその考え方を広げていくとによって、私達自身が地域から必要とされながら、少しでも社会に役立つ存在として誇りを持って、この世の中を明るく公正な舞台にしていく、そんな活動だと私は理解しています。

　クラブ内で、職業奉仕を話題にしていただけたらと思います。